

平成 29 年度入試【編入学一般入試】問題

## 小 論 文

(総合理工学部 建築・生産設計工学科)

### 注 意

- 1 問題紙は指示があるまで開いてはならない。
- 2 問題紙は参考資料を含めて 2 ページである。解答用紙 2 枚 (下書き用紙も 2 枚) である。指示があってから確認し、解答用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。
- 3 解答はすべて解答用紙の所定のところに記入すること。
- 4 解答用紙は下書き用紙も含めて全て提出すること。
- 5 試験終了後、問題紙は持ち帰ること。

【問題 1】

現在、日本では地震が多発しており活動期に入ったとされる。平成7年に発生した阪神・淡路大震災では、資料図1に示すように死者数の88%が家屋、家具などの倒壊による圧迫死とされた。「新耐震設計法」施行後の昭和57年以降の家屋の倒壊率は小さい。一方、住宅の耐震化は資料図2のように推移している。今後の耐震化率の予想とどうあるべきかについて、あなたの考えを600字以内で論述しなさい。

なお表には無いが、平成20年度で最も高い東京都の耐震化率87%に比べ、島根県では全国最低の65%となっている。

【問題 2】

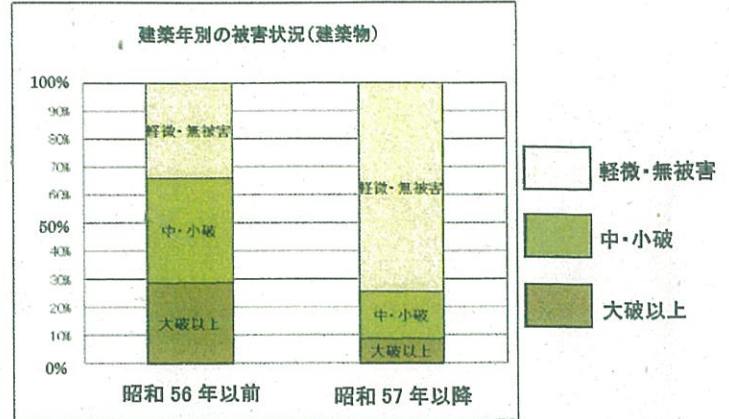
下記につき、(1)では国または都市名と旅程表を(2)では理由を論述で解答すること。

(1) 海外旅行で行ってみたい国または都市を挙げ、一日の旅程表を作成しなさい。但しその日は出国・帰国日に当たらない、全日自由な一日とし、旅行者はあなた一人とする。また旅費や現地での語学力は不問とする。

(2) (1)の旅程表であなたが解答した場所に、なぜ行きたいのかを300字以内で論述しなさい。

参考資料

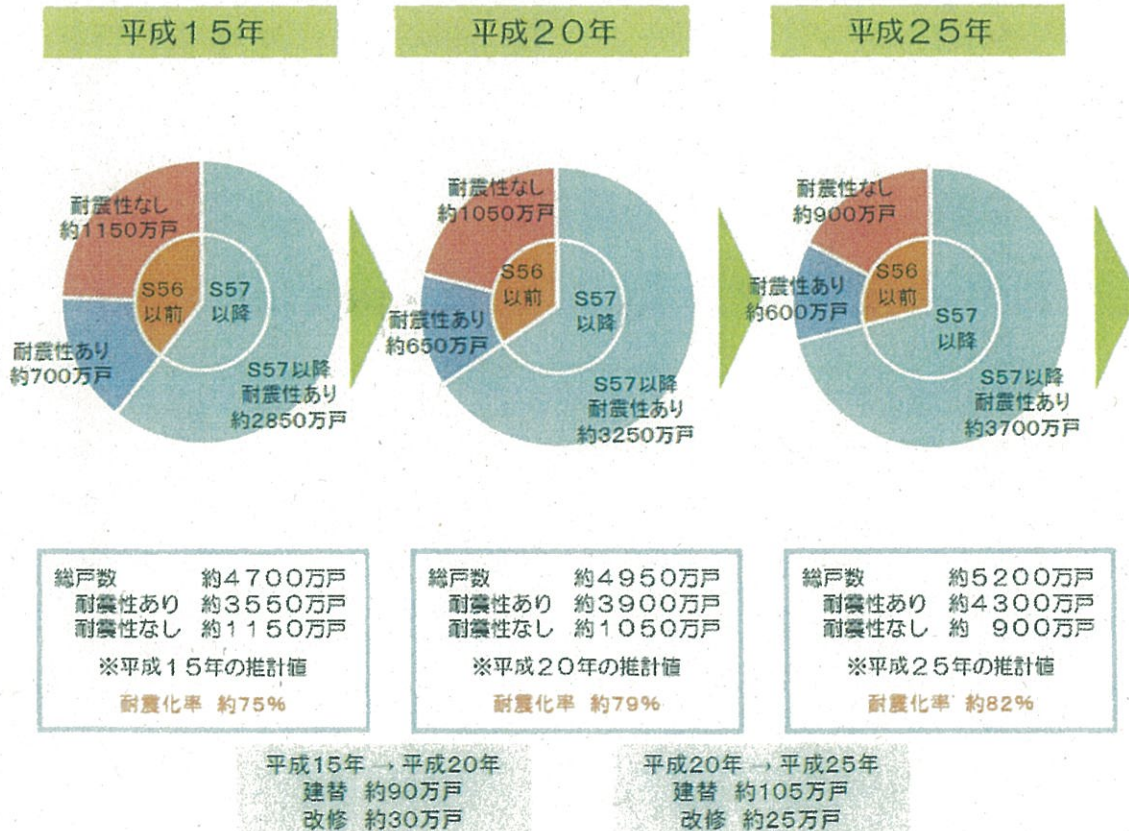
死亡者の死因	
家屋、家具類等の倒壊による圧迫死と思われるもの	4,831(88%)
焼死体(火傷死体)及びその疑いのあるもの	550(10%)
その他	121(2%)
合計	5,502(100%)



※平成7年度版「警察白書」より(平成7年4月24日現在)警察庁調べ  
 ※消防庁:阪神・淡路大震災について(確定報、平成18年5月19日)による死者数は6,434名、全壊住家数は約10万5千戸

(出典)平成7年阪神淡路大震災建築震災調査委員会中間報告

資料図1 阪神・淡路大震災による建築物等に係る被害  
 (国土交通省 HP:住宅・建築物の耐震化について から)



資料図2 住宅の耐震化率(戸数)推移  
 (国土交通省 HP:住宅・建築物の耐震化について から)